

口腔領域、薬学教育にどう位置付ける？

教員会議、コアカリ反映に理解も

2022/4/25 15:12

口腔領域を取り入れた薬学教育を考える教員会議が24日、大阪府高槻市の大阪医科薬科大であった。日本口腔ケア学会総会・学術大会のプログラムの一つで、口腔領域の知識が現状では十分でない一方で、チーム医療や多職種連携を進める上で必要性は高まっていることを確認した。文部科学省が進める薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の議論に加わっている委員もパネリストとして参加し、理解を示した。



口腔領域と薬学教育について議論した教員会議

薬学教育での口腔領域の扱いについて、同学会薬剤師部会の山浦克典氏（慶応大薬学部教授）は、2022年2月の薬剤師国家試験で口腔に関連する設問が3つあったが、いずれも医薬品の副作用に関連した問題だったと指摘。コアカリについても「『口腔』の具体的な記述はない。咀嚼・嚥下など口腔機能の理解や、口腔疾患に関する基本的事項の習得が必要だ」と訴えた。また、薬局薬剤師の半数以上は知識不足を背景に、口腔内疾病への対応に不安を感じている研究結果も提示した。

薬学教育に口腔領域を取り入れる場合の展望として、大山順子氏（九州大大学院歯学研究院講師）は3段階の到達目標を提示。①口腔ケアや口腔疾患などについて口頭で簡単なやりとりができる②患者の口腔内フィジカルアセスメントから正常と異常の判断ができる③服用薬剤から口腔疾病の発症リスクを予測し、同アセスメントをした上で、多職種連携につなげる—の流れを、卒前だけでなく卒後も学んでいく流れを示した。

●学生時代こそ「系統的に」

実際にコアカリ改訂の議論に関わっている立場からは、小澤孝一郎氏（広島大大学院医系科学研究科薬学部教授）が登壇し、「学生時代は、これからも学び続け、一生仕事をする上での基礎をつくる場所。学生時代に口腔領域を系統的に学ぶのは大切だ」と言及。今回のコアカリ改訂に盛り込めるかは見通せないしつつも、「将来を見据えた改訂が求められている。今が踏み出さないといけない時だろうと思う」と話した。小澤氏は文科省のコアカリ改訂の専門研究委員会で委員を務めている。

会議冒頭では、同学会の夏目長門理事長（愛知学院大歯学部教授）が挨拶。昨年4月に薬剤師部会を立ち上げるなど薬剤師の重要性を強調しつつ「さらなる口腔ケアによる国民への貢献には、薬剤師の皆さまに一翼を担ってほしい」と述べた。

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.

Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.

Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう